

2025 年 5 月 23 日発行

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 外部連携団体からのお知らせ
- 3) 健康心理学コラム vol. 149 「多職種連携による健康心理学者の活動拡大を望む」 岩田 昇 (獨協医科大学)

1) 学会からのお知らせ (<https://kenkoshinri.jp/>)

【注意喚起】日本健康心理学会第 37 回大会の旧 URL にご注意ください

2024 年度 (第 37 回) 大会の旧 URL につきまして、大会ホームページを閉鎖後に第三者によってドメインが取得されていることが確認されました。

旧 URL にアクセスした場合、本学会とは無関係の不正・詐欺的なサイトが表示される事例を確認しております。

本学会では、公式ウェブサイト内に掲載されていた該当 URL をすべて削除するよう対応を進めております。

しかしながら、インターネット上の検索結果や他のサイト、メール等には、依然として該当 URL が残っている可能性があります。

- ・該当 URL には絶対にアクセスしないでください。
- ・他の関係者にもこの情報を共有し、注意喚起にご協力ください。

■日本健康心理学会第 38 回大会のお知らせ (日本健康心理学会第 38 回大会準備委員会より)

期日：2025 年 9 月 20 日 (土)・21 日 (日)

会場：桜美林大学新宿キャンパス (東京都新宿区百人町3 丁目 23-1)

準備委員長：石川 利江 (桜美林大学)

テーマ：ウェルビーイングの未来～健康心理学におけるポジティブアプローチの可能性～

大会 HP：<https://healthpsychology2025.com>

<大会のスケジュール>

・発表申込み受付 (一般演題、シンポジウム) および発表論文集原稿投稿受付：5 月 26 日 (月)～6 月 27 日 (金)

・参加登録

早割受付：5 月 26 日 (月)～8 月 8 日 (金)

通常受付：8 月 9 日 (土)～9 月 21 日 (日)

■ヨーロッパ健康心理学会 Practical Health Psychology blog (PHPB, 実践健康心理学ブログ) の 5 月記事のお知らせ (国際委員会より)

“Physical activity in older age: how much is enough?” の日本語記事「高齢期の身体活動：どのくらいやればよいのか？」が掲載されました。

下記 URL よりご覧ください。

<https://practicalhealthpsychology.com/ja/2019/10/physical-activity-in-older-age-how-much-is-enough/>

※アクセスの際には、URL 全てをコピーしアドレスバーへペーストのうえご高覧ください。

※ブラウザによっては開けない場合があります。その際にはお手数ですが、別のブラウザにてお試しください。

■2025 年度アーリーキャリアヘルスサイコロジスト (ECHP) 賞について (国際委員会より)

2025 年度アーリーキャリアヘルスサイコロジスト賞の公募期間は、6 月 2 日 (月)～7 月 31 日 (木) です。6 月初旬に学会 HP「お知らせ」に詳細を掲載いたします。

2) 外部連携団体からのお知らせ

■情報誌「ストレス&ヘルスケア No.255」の公開 (健康日本 21 推進全国連絡協議会より)

公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター発行の情報誌「ストレス&ヘルスケア No.255」が公開となりました。

<https://note.com/kenkounippon21/n/n571e97db874c>

3) 健康心理学コラム Vol. 149

「多職種連携による健康心理学者の活動拡大を望む」

岩田 昇 (獨協医科大学)

保健医療系学部では、IPE (Inter-Professional Education: 専門職連携教育) が積極的に展開されてきています。しかし、学術活動の専門職間連携は未だに十分とは言えません。欧米に比べて、日本では垣根が高い気がします。でも、データの収集方法や解析方法、見える化に長けている心理学者とコラボすれば、もっと精緻なエビデンスが得られると思いませんか？

私はこれまで、産業ストレスの捉え方の方法論 (岩田, 2021) やメンタルヘルス (Iwata et al., 2024) などに取り組んできましたが、看護系研究者との連携協働により、助産師の仕事満足 (Koga & Iwata, 2023)、保健師の地域活動 (檀原・岩田, 2024)、地域高齢者のゴミ屋敷問題 (松崎他, 印刷中)、ドクターヘリの業務行動 (菱沼他, 投稿中) など、様々な健康関連課題を扱うようになりました。もっと広く本学会が認知され、さらなるエビデンスの創出と社会実装など、健康心理学者の活動範囲が拡大していくことを望んでいます。

引用文献

岩田 昇 (2021). ストレスチェックのマンネリ化を防ぐためにーコンピュータ版適応型テストの活用可能性ー. 産業医学ジャーナル 44, 10-16.

Koga, Y. & Iwata, N. (2023). Job satisfaction of Japanese midwives in the Tokyo metropolitan area. European Journal of Midwifery 7, 15.

檀原 三七子・岩田 昇 (2024). 健康づくりを推進する住民組織のための研修内容ならびに実施状況の実態. 日本健康教育学会誌 32, 156-165.

Iwata, N., et al. (2024). The husband's mental health is affected by the wife's happiness, but not vice versa: A longitudinal observation. Industrial Health 62, 401-405.

松崎 洋子他 (印刷中). 高齢者のセルフ・ネグレクト状態の類型化. 日本看護科学会誌

菱沼 秀一他 (投稿中). ドクターヘリにおけるフライトクルーの構成と現場滞在時間との関連：フライトナースの On-the-job training 教育の影響. 日本看護科学会誌

日本健康心理学会広報委員会

<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更は下記アドレスまで

日本健康心理学会事務局 < jahp@pac.ne.jp >

メールマガジンへのご意見・ご感想は下記アドレスまで
広報委員会 < jahp@pac.ne.jp >
過去のメールマガジンは、こちらからご覧いただけます
<https://kenkoshinri.jp/health/health1.htm#mailmaglist>